

## 第6・7回ノーバディズ・パーフェクト・プログラム総括

植田 智<sup>1)</sup>

### 1. はじめに

本学においてノーバディズ・パーフェクト・プログラム（以下、NPプログラムと略）を開催して、今年度で7回目となった。心理学科のソシオ学校活動として地域にも定着し、プログラム参加者と本学の他の子育て支援活動とのつながりも深まってきている。

また、例年通り実施主体は心理教育相談センターと心理学科の共催とし、安佐北区と財団法人ひろしまこども夢財団よりこの活動の趣旨にご賛同いただきご後援をいただくことができた。

### 2. NPプログラムについて

NPプログラムについての解説は一昨年度の紀要（植田，2011）を参照されたい。概略として、このプログラムはその名の通り「はじめから一人前の親などいない。皆まわりからの助けを得ながら親になっていく」との考えのもとに、カナダで作成された0歳から5歳の乳幼児を持つ母親向けの支援プログラムであり、毎週1回の計8回で構成される。事前面談をもとに設定された共通の悩みや不安などのテーマについて、ファシリテーターの支援のもと、参加者同士で不安の軽減や問題解決の糸口を見つけるとともに、関係づくりをめざすものである。

そのことを可能にするために重要となるのが、完全クローズドの安心してくつろげる空間づくりと、そのためのファシリテーター、託児スタッフ、運営スタッフの3部署の連携である。本学では、毎回プログラム終了後に全スタッフによるミーティングを行うことで、連携を密にしていることがひとつの大きな特色となっている。

### 3. 実施概要

#### 第6回NPプログラム

- (1) 主 催：広島文教女子大学人間科学部心理学科・心理教育相談センター
- (2) 後 援：安佐北区・財団法人ひろしまこども夢財団
- (3) 開催日：2012年10月31日～12月19日の毎週水曜日10：00～12：00まで、全8回
- (4) 場 所：広島文教女子大学心理教育相談センター
- (5) 参加者：14名（0～5歳の子どもを持つ母親）  
子どもは12名（0歳6カ月から4歳11カ月まで）
- (6) スタッフ（敬称略）  
ファシリテーター：金子留里，濱田さつき，2名  
いずれもNPジャパン認定ファシリテーター  
託児スタッフ：坂本牧子（代表），井上正子，鶴田実千代，藤田弘香，4名  
学生託児スタッフ：中川聡子，永井勇樹（大学院教育学専攻1年），河本こよみ，寒澤市乃，盆子原亜祈，細藤邦子（心理学科4年），南浦夏海（初等教育学科4年）上丸恵理，中川絢子（初等教育学科3年），9名  
運営スタッフ：植田 智，小早川久美子，松由佳，木本明日香，平原明日香，5名

#### 第7回NPプログラム

- (1) 主 催：広島文教女子大学人間科学部心理学科・心理教育相談センター
- (2) 後 援：安佐北区・財団法人ひろしまこども夢財団

1) 広島文教女子大学人間科学部心理学科科長

- (3) 開催日：2013年10月23日～12月11日の毎週水曜日10：00～12：00まで，全8回
- (4) 場 所：広島文教女子大学心理教育相談センター
- (5) 参加者：14名（0～5歳の子どもを持つ母親）  
子どもは15名（0歳3カ月から2歳6カ月まで）
- (6) スタッフ（敬称略）  
ファシリテーター：金子留里，濱田さつき，2名  
いずれもNPジャパン認定ファシリテーター  
託児スタッフ：坂本牧子（代表），井上正子，藤田弘香，宮本静子 4名  
学生託児スタッフ：木下千晶、中谷岳二（大学院教育学専攻1年），井関祥子、水津舞弥、竹本里佳子、外浦菜々子（心理学科4年），上丸恵理，中川絢子（初等教育学科4年），岡野桃菜、峠智子（初等教育学科3年），10名  
運営スタッフ：植田 智，小早川久美子，松由佳，兼田知美，平原明日香，5名

#### 4. 第6・7回NPプログラムの特徴

##### (1) 心理学科「ソシオ学校」活動としてのNPプログラム

一昨年度より，本プログラムは子育て支援という地域貢献と教育活動の2つが両輪となった「ソシオ学校活動」として位置づけられている。

学生たちのNPプログラムへの関与度を高めるため，募集チラシの作製や発送，参加者名簿の作成などの事務的業務を学生たちに任せた。これにより，地域貢献活動についてのノウハウやそれにかかわる人々の思いを理解することを狙いとしている。

さらに，NPプログラムの意義や自分たちの位置づけを明確にするために，事前講習会において託児方法のみならず，プログラムそのものについての研修も行っている。

プログラム実施中は，託児による子どもの発達やかかわり方の体験的理解はもとより，毎回終了後のミーティングにおいてファシリテーターからプログラムの概要を報告していただくことによ

り，母親や子育てに対する理解も深めている。

##### (2) 科目への組込みの見送りと複数学科学生の参加

第6回のプログラム開催にあたり，年度当初は心理学科「ソシオ学校」活動としての位置づけをより明確にするため，学科新カリキュラムの2年次後期開講科目「対人サポート演習Ⅰ」としての実施を意図していた。しかし，それまでに乳幼児と実際にかかわる演習が行われていない中で，いきなり科目履修者全員に託児スタッフを任せることには強い懸念があり，科目への組込みは見送ることとなった。この結果，学生託児スタッフの募集も遅れたため，例年よりも学科学生の参加が少なくなった。その一方で，初等教育学科の学生の参加が増え，結果としては複数学科の学生たちが共同で取り組む事業となり，相乗効果が期待されるものとなった。

第7回では初等教育学科の学生の参加がさらに増えた。今後はさらに多くの学科からの参加を働きかけるべく，募集活動をしていきたい。

#### 5. おわりに（謝辞）

今回も，ご後援いただいた安佐北区および財団法人ひろしまこども夢財団の皆様のおかげだけではなく数多くのご支援，本学教職員の多大なるご協力，ファシリテーターや託児スタッフの皆様の労を厭わぬお働き，そして参加してくれた学生たちの誠実さと責任感に支えられて，大過なくプログラムを終了することができた。

ご関係の皆様方に，紙面を借りて深く感謝の意を表します。

#### 引用文献

- 植田智(2011). 第3回ノーバディーズ・パーフェクトプログラム総括 広島文教女子大学臨床心理学研究, 1, 65-66.